

tokachi no kinoutuwa



工房
十勝の木のうつわ

<http://www.tokatinokinoutuwa.com>

工房
十勝の木のうつわ はじめに

工房十勝の木のうつわでは北海道の木、30種類以上を使って、普段使いできるシンプルなデザインの木のうつわ、カトラリーを作っています。工房は旧中里小学校の廃校で、家族で営んでいる工房です。木のうつわはろくろで作るものと数年天然乾燥させた材で、はじめてろくろで荒ぐりをして三ヶ月ねかして中ぐり



をしてまた一週間ねかして仕上げといった具合に、ひとつひとつ時間をかけて作っていますのでその分長くお客さまに使っていただけます。

代表 佐々木 要

木のうつわ
制作過程
process of making wood bowls



- 1. 墨付け**
木材にはいろんな傷があります。この材の中央部は芯込みです。目切れなどの欠点のない部分を選んで長い期間乾燥させた材料に墨付けをします。
- 2. 荒木取り**
バンドソーで荒木取りをします。鋸とタイヤの間に木片が落ちぬ様、材は鋸の内側で加工します。
- 3. 荒繰り (外側)**
外側の荒繰りです。水分の多い木材は乾燥が進むと、小口割れが生じます。内側の荒繰りした材は不思議と、小口割れが少なく乾燥も速まります。
- 4. 中繰り**
荒繰り乾燥した材は楕円形に歪んでいます。その歪みを取る作業が、中繰りです。スクロールチャックで保持し、内外の形を整えます。
- 5. 中繰り材の乾燥**
中繰りした材料は、一週間ほど室内で放置しておきます。段階を経てうつわの形にしていく事によって木のうごきがなくなり、材料も乾燥していきます。
- 6. 仕上げ (外側)**
十分に乾燥した所で、仕上げ加工です。スクレーパーで表面仕上げをしています。
- 7. 仕上げ (内側)**
お碗の内側の仕上げです。ドーム型のスレーパーで逆目を止めます。内外とも最後は、布ペーパーで仕上げます。

木の種類について
variety of woods



北海道の木30種類以上の広葉樹、針葉樹をつかっています。主にセン、キハダ、ミズナラ、サクラ、イタヤ、シュリなど。また貴重な材料の埋もれ木やコブ材なども使用しています。(ブラックウォルナットは輸入材ですがワンプレーなどに使用しています)



カツラ



アサダ



マカバ



オニグルミ



ハルニレ
埋もれ木



ダケカンバ
コブ

十勝の木のうつわで
おもに使う木



HPの木の種類へ



セン



イタヤ



ハルニレ



ミズナラ



ホオ



エンジュ



シュリ



エンジュ



サクラ

木のうつわの仕上げについて



ウレタン仕上げ

オイルフィニッシュは日々使う事により独特な風合いがでできます。

finish

学校給食器にもつかわれている塗装です。元の木地色に近い仕上げになっています。



オイル仕上げ



漆仕上げ(拭き漆)

漆をぬり乾燥させて、またとぐ事を繰り返し光沢と強度を出した塗装です。

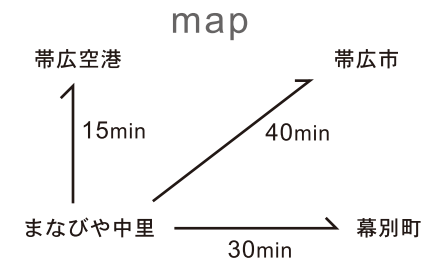
うつわの取り扱いについて
instruction

十勝の木のうつわは普段使いできる木のうつわです。普通の食器と同じように洗剤を使うこともできます。

粒子が細かいカレー粉は、うつわの表面に付着してしまうので、ご使用をお避けください。

長時間水につけておくと、ゆがみの原因になりますのでなるべく早く水分をお取りください。

電子レンジや食浄器のご使用は、ゆがみ、割れの原因になりますので、ご使用をお避けください。



工房 十勝の木のうつわ

tel+fax:0155-56-3123

e-mail:habiro@nifty.ne.jp

<http://www.tokatinokinoutuwa.com>

〒 089-0782

北海道中川郡幕別町中里155まなびや中里

